

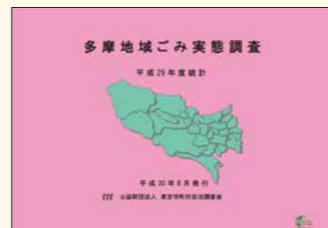
多摩地域ごみ実態調査(平成29年度統計)を発行しました

当調査会では毎年度、多摩地域30市町村のごみ処理の実績をまとめ、「多摩地域ごみ実態調査」として発行しています。このたび、平成29年度の統計ができあがりまして、概要をご紹介します。

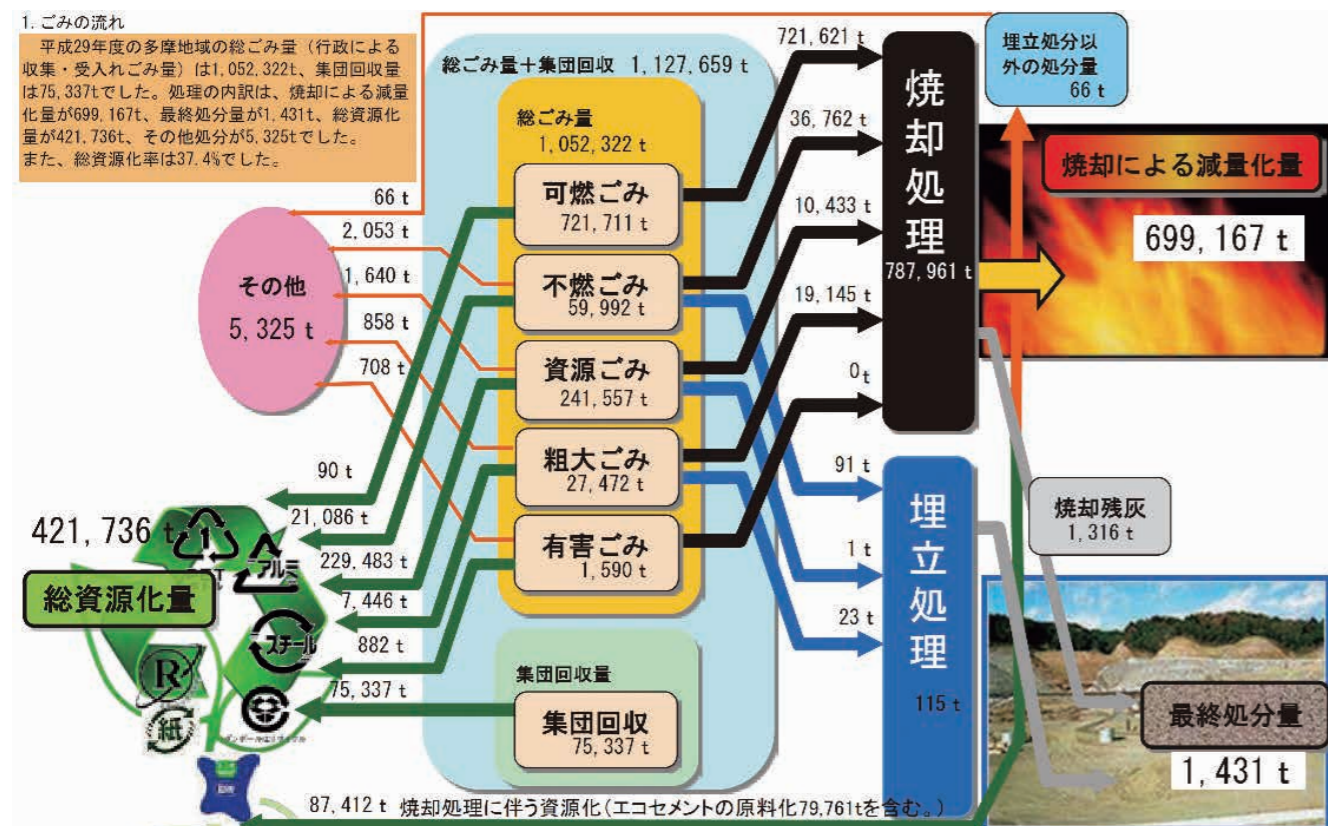
「多摩地域ごみ実態調査(平成29年度統計)」の報告書は、当調査会のホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)からダウンロードすることができます。

- ・「多摩地域ごみ実態調査(平成29年度統計)」 全54ページ
- ・「多摩地域ごみ実態調査(平成29年度統計 概要版)」 全18ページ

なお、以前の報告書(平成19年度～平成28年度統計)についても、ダウンロードすることができます。ぜひご利用ください。



▶ 平成29年度 多摩地域30市町村のごみ処理の実績



※ 数値データは、その算出に当たり、小数点以下を四捨五入しているため、各内訳数値の合計とその合計欄の数値が一致しない場合があります。

総ごみ量

平成29年度の総ごみ量(家庭ごみ及び事業系ごみ)は1,052,322tとなり、前年度に比べて1.5%減少しました。主な内訳を見ると、収集ごみ量(主に家庭ごみの量)は892,290tで前年度に比べて1.2%減少し、持込ごみ量(主に事業系ごみの量)は160,032tで前年度に比べて3.0%減少しました。

1人1日あたりのごみ量

1人1日当たりのごみ量(集団回収[※]量を含む)は733gとなり、前年度に比べて1.9%減少しました。
※町会・自治会等の地域の団体が、紙類やびん等の資源物を回収して直接回収業者に引き渡す自主的な資源回収

ごみの資源化

平成29年度の総資源化率(リサイクル率)は37.4%で前年度に比べて0.2ポイント減少し、ごみ資源化率は32.9%で前年度に比べて0.1ポイント減少しました。

◆ ごみの資源化の状況を示す総資源化率(リサイクル率)とごみ資源化率は、次の計算式で求めています。

$$\text{総資源化率(リサイクル率)} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量}^{(*)} + \text{収集後資源化量}^{(**)} + \text{集団回収量}}{\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}}$$

$$\text{ごみ資源化率} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量} + \text{収集後資源化量}}{\text{総ごみ量}}$$

※1 分別収集や拠点回収を行った資源ごみ(缶、びん、ペットボトル等)の量

※2 中間処理施設において、不燃ごみや粗大ごみ等から選別された資源物の量とエコセメントの原料に使用した焼却灰の量

最終処分量

最終処分量は1,431tとなり、前年度に比べて4.0%減少しました。内訳を見ると、焼却処理施設からの焼却残灰が1,316tで前年度に比べて0.8%増加、埋立処理された不燃残さ(不燃ごみ等を破碎選別したもの)が115tで前年度に比べて37.5%減少しました。

ちょっと一息



集めてみたい? なら、行ってみよう
～マンホールカード～

以前、本紙(2015年3月号(No.018))で、マンホールのふたについて取り上げました。様々なデザインが施され、カラフルなものがあるをご紹介しました。

今、それらマンホールのふたの図柄をあしらったカードが作られ、ちょっとしたブームになっているのはご存知ですか?

マンホールカードは、下水道の関係団体などで構成される「下水道広報プラットフォーム(GKP)」が企画したもので、2018年8月末時点で、全国で累計364自治体が発行しています。表面に発行自治体名やマンホールのふたの写真、裏面にそのデザインの由来等が書かれており、訪れた方に無償で配布されています。例えば、小平市のマンホールカードを見れば、新宿の高層ビルや富士山を見ることができる、自然に恵まれた閑静な住宅地域をイメージしたデザインの由来が分かりますね。

発行自治体や配布場所などの一覧は、下水道広報プラットフォーム(GKP)のホームページ(www.gk-p.jp)で確認することができます。また、各自治体の配布場所や在庫状況などは、発行自治体のホームページで確認するか、直接、配布先までお問い合わせください。カードごとに指定された場所に足を運ぶともらえますよ。みなさんも是非多摩地域の色んなところへ出かけてマンホールカードを集めてみませんか。



小平市マンホールカード

※小平市のマンホールカードの配布は「小平市ふれあい下水道館」で行っており、なくなり次第終了となります。